

31年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	△ 8.3	8.3	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	0.0
	カラマツ	8.3	16.7	0.0
	トドマツ	16.7	16.7	16.7
消費動向	スギ	△ 25.0	8.3	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	△ 16.7
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	トドマツ	16.7	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 8.3	△ 8.3	△ 8.3
	トドマツ	△ 16.7	0.0	△ 16.7

・スギ国産原木の入荷動向は2月の減少から3月は増加、4月は増加に。ヒノキは2月の減少から3月、4月は横ばいに。カラマツは2月、3月の増加から4月は横ばいに。トドマツは3カ月連続増加。

・スギ原木の消費動向は2月の減少から3月は増加、4月は横ばいに。ヒノキは2月の減少から3月は増加、4月は再び減少に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは2月の増加から3月、4月は横ばいに。

・スギ、カラマツ原木の在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。トドマツは2月の減少から3月は横ばい、4月は再び減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
スギ	10.0	0.0	10.0
ヒノキ	0.0	0.0	16.7
カラマツ	20.0	20.0	10.0
米マツ	0.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・合板用国産原木の購入価格動向はスギ、カラマツとも強保合。その他（トドマツ）は横ばい。

・外材は米マツ、北洋カラマツとも横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギはいくらか増えるが、大幅に増えていない。カラマツは引き合い強く入荷減。製品出荷が好調を維持、消費は横ばい。在庫はスギ横ばい、カラマツ減少。
・カラマツ、トドマツ以外は順調に入荷。
・スギ出材良好で入荷増。トドマツ、天候不良が多く船運搬が遅れ入荷減により在庫減。
・スギ、ヒノキ材は計画数量に満たない。入荷状況により消費。在庫はスギ、ヒノキ減少。2月中旬からの入荷に期待。
・地域材指定物件用スギ丸太は入手が難しい。山梨工場稼働スタート用のスギ・カラマツ原木を調達開始。山梨工場生産開始により消費増加。スギ・カラマツ原木は調達状況により在庫変動。
・工場が丸太で満杯なので調整しながら入荷を進める。消費は稼働日数で決まる。スギの在庫を減らし、ヒノキ在庫を増やしていく。

(原木価格)

・スギ・カラマツとも強含み、米マツは昨年から続いた下げが一服。
・全ての樹種で強含み。
・スギは安定、カラマツ強含み。
・全樹種とも上昇傾向。
・原木購入価格は横ばいを維持する。

31年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
生産動向	構造用(9mm)	10.0	10.0	0.0
	// (12mm)	0.0	16.7	0.0
	// (15mm)	8.3	8.3	0.0
	// (24mm)	0.0	16.7	0.0
	// (28mm)	0.0	8.3	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	16.7	0.0	△ 10.0
	// (12mm)	7.1	0.0	0.0
	// (15mm)	7.1	0.0	0.0
	// (24mm)	7.1	0.0	0.0
	// (28mm)	0.0	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	// (12mm)	0.0	0.0	0.0
	// (15mm)	0.0	0.0	0.0
	// (24mm)	△ 8.3	0.0	0.0
	// (28mm)	△ 8.3	0.0	0.0

・構造用合板の生産動向は9、15mmは2月、3月の増加から4月は横ばいに。12、24、28mmは2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。

・出荷動向は9mmは2月の増加から3月は横ばい、4月は減少に。12、15、24mmは2月の増加から3月、4月は横ばいに。28mmは3カ月連続横ばい推移。

・在庫動向は9、12、15mmは3カ月連続横ばい推移。24、28mmは2月の減少から3月、4月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
構造用(9mm)		0.0	10.0	0.0
// (12mm)		0.0	8.3	0.0
// (15mm)		0.0	8.3	0.0
// (24mm)		0.0	8.3	0.0
// (28mm)		0.0	8.3	0.0

・出荷価格動向は全ての品目で販価見直しによりやや強含み。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・計画通りの生産販売。出荷はいくらか落ちるが、ほぼ計画通りの出荷。在庫は大きく増減はない。
- ・残業等の規制もあり生産増えず。受注残もあり出荷増。ただこれから若干緩むか。
- ・2月一杯は出荷順調だが3月以降落ちて行く。在庫は横ばいから増の見込み。
- ・納材不良にて1月減少、2月は計画通り生産。出荷は24mm、28mm増加もほぼ横ばい。在庫は全品種で減少。・工場内の人員不足の状況もあり、受注も横ばいに抑えたい。顧客の動向については、1月の動きが悪かったが徐々に持ち直していく情報あり。
- ・稼働日数次第の生産となる。12mm、ネダノンでは24mmに引き合いが集中。生産状況に合わせての出荷となる。在庫は低水準のままで推移する。

(構造用合板の価格)

- ・コスト増加により販価見直し。
- ・今後、原料、運賃等コストアップ要因多し。
- ・春ごろから在庫増を見ての価格の下げが始まる見込み。
- ・合板価格はほぼ横ばい。・価格は安定している。県産材などの特注品は、別途コストアップの相談をしている。
- ・価格は横ばい。原木価格、輸送コスト次第では価格見直しもあり得る。